

第3・4学年算数科学習指導案

日 時 平成20年10月 9日(木) 5校時
 児 童 第3学年 男子2名 女子1名 計 3名
 第4学年 男子1名 女子2名 計 3名
 指導者 町 畑 光 明

《第3学年》

1 単元名 「かけ算のしかたを考えよう」[かけ算の筆算(1)]

2 単元について

(1) 教材について

第3学年の「数と計算」の目標は、「加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。

本学年では、乗法九九については、第2学年で学習してきているが、第1単元で、乗法九九についての理解をまとめたり、乗法の交換法則や、乗数が1ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係を含めた分配法則について学習してきている。

本単元では被乗数が何十、何百の除法の計算は10や100を単位として考えれば1位数どうしの乗法に帰着できることを理解し、そのことを活用して計算できるようにする。

また、何十、何百に1位数をかける計算をもとにして、2位数、3位数に1位数をかける計算を導入し、乗法の筆算形式とともに、その計算の原理や手順について理解を図る。

ここで取り扱う、2、3位数に1位数をかける計算は、本学年の第14単元の2位数どうしをかける計算の基礎に当たっているため、筆算の原理の理解とともに、計算技能を十分に高めておくことが大切である。

(2) 児童について

算数好きが多く、進んで発表したり自力解決に取り組んだり、積極的に学習に取り組む児童である。

しかし、学習内容を理解するのに時間がかかったり、解決の方法を筋道立てて考えることが苦手な児童もおり、自力解決の取り組みに差が生じることがある。また、具体物や図での自力解決と計算での自力解決を結びつけて考えることがまだ十分でない。

○レディネステストの結果 (正答数) (略)

問 題	A児	B児	C児
$3 \times 0, 0 \times 2, 8 \times 10, 10 \times 9$			
$5 \times \square = 0, \square \times 8 = 0$			
$3 \times 9 = \square \times 9, 6 \times \square = 7 \times 6$			
$4 \times 6 = 4 \times 5 + \square, 8 \times 7 = 8 \times 8 - \square$			

レディネステストの結果からは、第1単元の「かけ算」の学習内容は比較的定着しているといえる。しかし、除法計算では、九九を用いて素早く商を求めることがまだ十分でない。本単元でも九九の活用が不可欠なので、事前に補充指導し、本単元を迎えたい。

《第4学年》

1 単元名 「わり算の筆算を考えよう」[わり算の筆算(2)]

2 単元について

(1) 教材について

第4学年の「数と計算」の目標は、「除法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、小数及び分数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、小数の加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、適切に用いることができるようにする。」である。

本単元では、除数が2位数で、被除数が2～3位数の計算方法を指導する。2位数でわる計算は、除数のけた数が増えても計算を進めるときの考え方や手順は同じであるが、仮商をたてることや仮商の修正が必要であるため、計算方法の理解や習熟が困難になる。

各段階で商を求める際には、商の見当をつけて進めることになる。計算の見積もり、及び簡単な暗算の力が必要となる。

あまりのある除法の計算については、検算の方法として、被除数、除数、商、あまりの関係を調べ、乗法を含めて除法について理解を深める。

除法には、被除数と除数に同じ数をかけても、同じ数であっても商は変わらないという性質がある。この性質は、小数の除法の計算の仕方を考えたり、分数の計算の仕方考えるときにも用いることのできる重要なものである。

(2) 児童について

算数好きが多く、進んで発表したり自力解決に取り組んだり、積極的に学習に取り組む児童である。また3人で話し合いながら学習を進めることも、少しずつではあるができるようになってきている。

しかし、学習内容を理解するのに時間がかかったり、解決の方法を筋道立てて考えることが苦手な児童もおり、自力解決の取り組みに差が生じることがある。また、話し合う場面では、解決方法の妥当性や関連性を見付けだすことにも差があるので、それぞれの学習過程で、支援が必要である。

レディネステストの結果 (略)

問 題	A児	B児	C児
45 ÷ 3の等分除(文章題)			
74 ÷ 3の等分除(あまりあり,文章題)			
2, 3位数 ÷ 1位数の暗算(正答率)			
98 ÷ 8の筆算			
460 ÷ 7の筆算			

レディネステストの結果からは、第3単元の「わり算の筆算(1)」の学習内容は比較的定着しているといえる。しかし、2、3位数 ÷ 1位数の暗算の正答数にばらつきがある。

本単元では、仮商を求めることが2、3位数 ÷ 2位数の筆算を解く際に重要になる。その際に、何十 ÷ 何十、何百何十 ÷ 何十の計算を暗算で求めなくてはならない。本単元の第1小単元の定着はもとより、暗算の技能も高めて本単元を迎えたい。

(3) 指導にあたって

何十、何百×1位数では、10や100を単位として考えれば、九九で積を求められることに気付かせる。またその積は、10や100のいくつ分であることをしっかりおさえさせたい。

2位数×1位数の計算の仕方を考えるときに活用するのは、分配法則の考え方である。被乗数を十の位と一の位に分けることで、既習の何十×1位数と、九九を使って求められることに気付かせながら、筆算の仕方を理解させたい。

3位数×1位数では、2位数×1位数で活用した分配法則をさらに活用し、数の構成をもとに百の位、十の位、一の位に被乗数を分けて計算することを扱う。さらに、それをもとにしての3位数×1位数の筆算の仕方を理解させたい。

3口の乗法では、乗法の結合法則を理解させるとともに、計算の順序を変えることもでき、より簡単に計算ができる場合があることに気付かせる。

本単元を通して、具体物や図、位ごとに分けての計算を通して、乗法の意味と筆算の仕方を関係付けて指導していくことが大切であると考え。

3 単元の目標

筆算形式による2、3位数に1位数をかける乗法計算の仕方について理解し、それを用いる能力を高める。

【関心・意欲・態度】

- 筆算形式による2、3位数×1位数の計算の仕方を、既習の乗法計算の仕方をもとに考えようとする。

【数学的な考え方】

- 筆算形式による2、3位数×1位数の計算の仕方を、数の構成や十進位取り記数法をもとに考える。

【表現・処理】

- 2、3位数×1位数の計算を筆算でできる。
- 乗法の結合法則を計算に用いることができる。

【知識・理解】

- 2、3位数×1位数の筆算の仕方を理解する。
- 乗法の結合法則を理解する。

(3) 指導にあたって

何十、何百何十÷何十の計算では、10をもとにすることで、既習の1、2位数÷1位数と同様に暗算で処理する方法を指導する。この計算は、計算を2、3位数÷2位数の仮商をたてる際に重要なので確実な習熟を図りたい。

2、3位数÷2位数の筆算では、何十、何百何十÷何十の計算をもとに商の見当をつけられることをしっかりと理解させたい。また、筆算の仕方についても4操作の意味を確認しながら理解させていきたい。仮商の修正の学習では、「ひいた」結果の数と除数の大小に着目させ、商の修正の必要性や意味を理解させたい。

除法の性質を学習する際には、具体的な数値や場面をもとに理解させる。末尾に0のある除法の簡便な方法についても、被除数と除数の0を消すという形式だけでなく、除法の性質と関わらせて理解させる。また、あまりの大きさについても検算を通しておさえさせたい。

本単元の学習内容は、小数の除法や分数の計算を考える際にも重要になるので、確実な習熟を図りたい。

3 単元の目標

筆算形式による2～3位数を2位数でわる除法計算の仕方について理解し、それを用いる能力を伸ばす。

【関心・意欲・態度】

- 被除数が2位数の除法計算の仕方を、既習の除法計算の仕方をもとに進んで考えようとする。

【数学的な考え方】

- 見積もりをもとに、仮商のたて方や修正の仕方について考える。

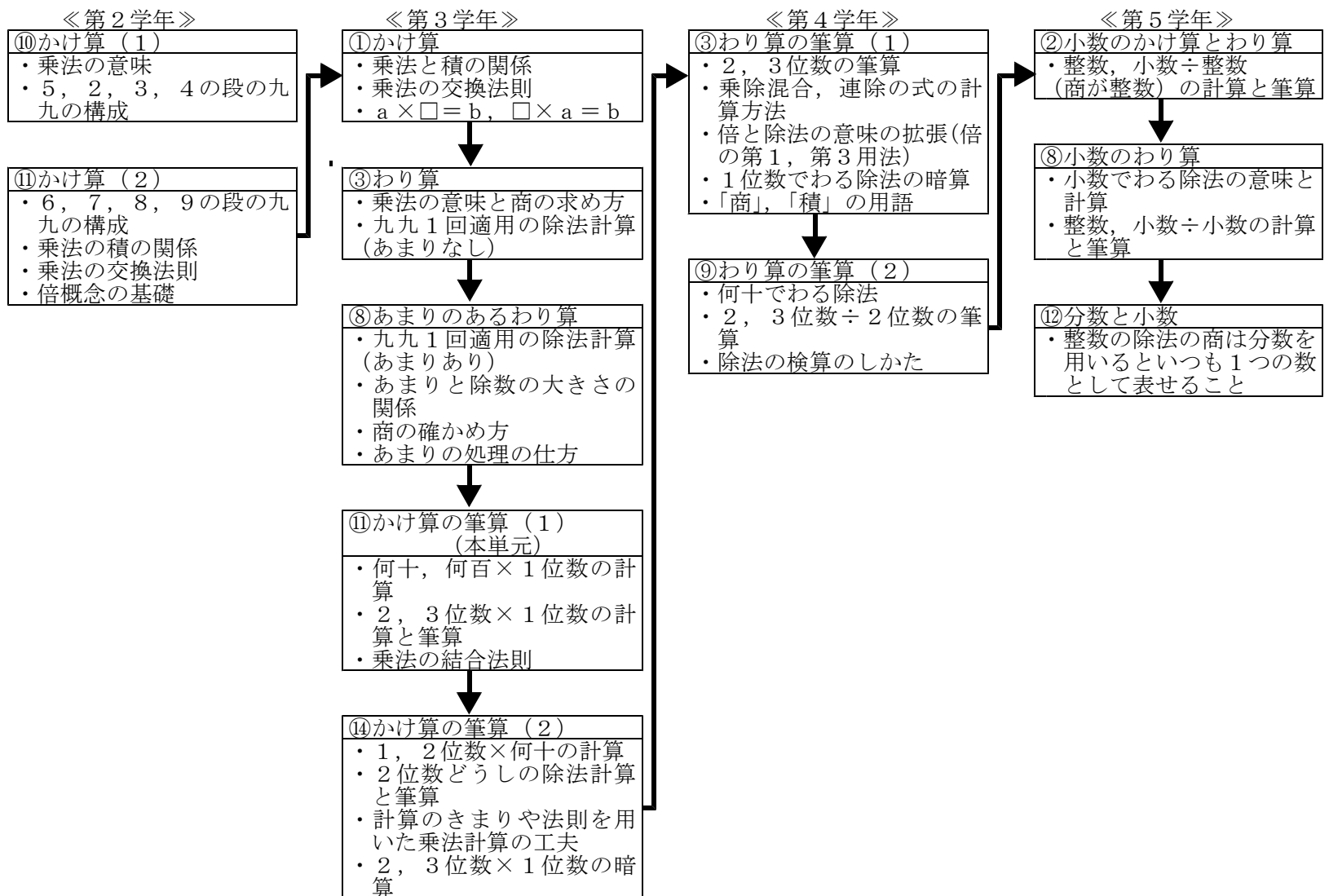
【表現・処理】

- 除数が2位数の除法計算を正確に筆算ですることができる。

【知識・理解】

- 除数が何十の除法計算の仕方を理解する。
- 除数が2位数の除法計算の筆算の仕方を理解する。

4 単元の発展と関連



5 指導計画及び評価計画（全16時間）

《第3学年》			時数		《第4学年》		
単元名「かけ算のしかたを考えよう」			16	16	単元名「わり算の筆算を考えよう」		
小単元	主な評価規準	学習活動	時間		学習活動	主な評価規準	小単元
何十・何百のかけ算	【数】何十，何百×1位数の計算を1位数×1位数の計算をもとに考えている。	プロローグ 九九表の空欄の数の求め方を考える活動を通して，被乗数の数範囲を拡張した乗法への興味・関心を高める。 【3年内容】 何十に1位数をかける乗法計算の仕方を理解する。	1	1	プロローグ 今まで学習してきた除法計算を振り返り，話し合いながら新たな課題となる，除数が2けたの除法計算への意欲や関心を高めるようにする。 【4年内容】 何十÷何十の計算の仕方を理解し，その計算をすることができる。	【数】十を単位として，何十÷何十の計算の仕方を考えている。 【知】何十÷何十のわる計算の仕方を理解している。	何十でわる計算
	【数】何百×1位数の計算を1位数×1位数の計算をもとに考えている。	【3年内容】 何百に1位数をかける乗法計算の仕方を理解する。	1	1	【4年内容】 何百何十÷何十の計算の仕方を理解し，その計算をすることができる。	【数】十を単位として，何百何十÷何十の計算の仕方を考えている。 【知】何百何十÷何十のわる計算の仕方を理解している。	
2けたの計算	【数】2位数×1位数の筆算の仕方を既習の乗法九九などをもとに考えようとしている。 【知】2位数×1位数の筆算の書き方と仕組みを理解している。	【3年内容】 2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を理解する。	1	1	【4年内容】 2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を理解し，その計算をすることができる。	【関】2位数÷2位数の計算の仕方を既習の計算をもとに考えようとしている。 【数】除数が何十の計算をもとにして2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を考えている。	2けたでわる筆算①
	【表】2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算ができる。	【3年内容】 2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算ができる。	1	1	【4年内容】 わる数×商+あまり=わられる数の関係を理解し，除法の検算をすることができる。	【表】2位数÷2位数の筆算及びその検算ができる。	
	【表】2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算ができる。	【3年内容】 2位数×1位数（一の位の数との部分積が2けた）の筆算の仕方を理解する。	1	1	【4年内容】 2位数÷2位数の筆算で，過大商をたてたときの仮商修正の意味とその仕方を理解する。	【表】過大商をたてたときの仮商修正ができる。	
	【表】2位数×1位数（十の位の数との部分積が2けた及び部分積がみな2けた）の筆算ができる。	【3年内容】 2位数×1位数（十の位の数との部分積が2けた及び部分積がみな2けた）の筆算の仕方を理解する。	1	1	【4年内容】 2位数÷2位数の筆算で，過小商をたてたときの仮商修正の意味とその仕方を理解する。	【表】過小商をたてたときの仮商修正ができる。	
【表】2位数×1位数（部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり）の筆算ができる。	【3年内容】 2位数×1位数の筆算の仕方を理解する。	1	1	【4年内容】 除数を切り上げ，切り捨ての両方による仮商修正の仕方を比較し，自分が考えやすい除数の処理の仕方を考える。	【関】仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考えようとしている。 【数】除数の見積もりをもとに仮商のたて方を工夫している。		

3けた×1けたの計算	<p>【数】2位数×1位数と同じ原理・手順を使って、3位数×1位数の筆算の仕方を考えている。</p> <p>【表】3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算ができる。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を理解する。</p>	<p>本時</p> <p>1</p>	<p>本時</p> <p>1</p>	<p>【4年内容】</p> <p>3位数÷2位数=1位数の筆算の、仮商のたて方を理解し、その計算をすることができる。</p>	<p>【表】3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。</p>	2けたでわる筆算②
	<p>【表】3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2けた）の筆算ができる。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>3位数×1位数（一、十の位の数との部分積が2けた）の筆算の仕方を理解する。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>3位数÷2位数=2位数の筆算の仕方を理解する。</p>	<p>【数】既習の計算の仕方をもとに筆算の仕方を考えている。</p>	
	<p>【表】3位数×1位数（部分積がみな2けた、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算ができる。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>3位数×1位数（部分積がみな2けた及び部分積を加えたときに繰り上がりあり）の筆算の仕方を理解する。</p> <p>3位数×1位数の筆算の仕方を確実にする。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。</p>	<p>【表】3位数÷2位数=2位数の筆算ができる。</p>	
	<p>【表】乗法2段階の式を1つの式に表すことができる。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>3つの数の乗法が1つの式に表せることを理解する。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方を理解する。</p>	<p>【知】商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方を理解している。</p>	
	<p>【表】結合法則を用い、3つの数の乗法の簡便な計算ができる。</p> <p>【知】結合法則について理解する。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>乗法の結合法則について理解するとともに、結合法則を用い、3つの数の乗法の簡便な計算ができる。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>除法について成り立つ性質を理解する。</p>	<p>【数】具体的な場面から、被除数、除数と商の関係を考えられている。</p>	
まとめ	<p>【表】学習内容を正しく用いて問題を解くことができる。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>学習内容を確実に身に付ける。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>末尾に0のある数の除法の簡便な計算の仕方と、あまりの求め方を理解する。</p>	<p>【表】末尾に0のある数の除法の簡便な計算ができる。</p>	わり算のきまり
	<p>【知】基本的な学習内容について理解している。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>学習内容の理解を確認する。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>学習内容を確実に身に付ける。</p>	<p>【表】学習内容を正しく用いて問題を解くことができる。</p>	
	<p>【知】基本的な学習内容について理解している。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>巻末の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容をもとにかけ算の筆算について理解を深める。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>操作的な活動や考察などを通して、学習内容の理解を深め、わり算についての興味を広げる。</p>	<p>【関】学習内容を適切に活用して、活動に取り組もうとしている。</p>	まとめ
	<p>【知】基本的な学習内容について理解している。</p>	<p>【3年内容】</p> <p>学習内容の理解を確認する。</p>	1	1	<p>【4年内容】</p> <p>巻末の「おもしろ問題にチャレンジ！」に取り組み、単元の学習内容をもとにわり算の筆算について理解を深める。</p>		

6 本時の指導

(1) 目標

○3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を理解する。

(2) 本時の指導にあたって

手立て1「指導過程の工夫」

①指導内容に応じた弾力的な指導過程の工夫

「やってみる」段階の時間を長くとり、2位数×1位数（部分積がみな1けた）での複数の解決方法に本時でも取り組ませ、位ごとに分けて計算することに気付かせ、その習熟を図る。

手立て2「個に応じた指導の工夫」

②個に応じた指導の工夫

「やってみる」段階で、自力解決用のプリント用意することで、自力解決が停滞しないように、支援を行う。

手立て3「既習事項活用の工夫」

①掲示の工夫

本時までの学習内容を掲示し、学習活動の支援とする。

②提示方法の工夫

「見通し」の段階で、2位数×1位数（部分積がみな1けた）の複数の解決方法の想起を具体的にし、自力解決への活用を促す。

(3) 評価規準と具体的評価規準

評価規準	
・3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考えている。 (数学的な考え方)	
具体の評価規準	A (十分到達している) 3位数×1位数（部分積がみな1けた）の解決方法の共通点を理解し、3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算と結び付けて考えている。
	B (到達している) 2位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の手順をもとに3位数×1位数（部分積がみな1けた）の筆算の仕方を考えている。
	支援の工夫 個に応じた自力解決用のプリントに取り組みせたり、確かめる場面で、位ごとの積と筆算の手順を関係付けて説明し、筆算の仕方を理解させる。

(4) 本時の展開

直接指導 間接指導 同時個別指導

段階	留意点・支援◎ 評価☆ リーダー●	学習活動 《3年生》	形態	学習活動 《4年生》	留意点・支援◎, 評価☆ リーダー●	段階
つかむ 5分	<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を提示し、問題の理解に役立てる。 <div style="text-align: center;"> $\begin{array}{r} 312 \quad \square \text{ (円)} \\ \hline 0 \quad 1 \quad 3 \text{ (まい)} \end{array}$ </div> <ul style="list-style-type: none"> 言葉の式と関係づけて式を考えさせる。 	<p>1 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 1まい312円の色画用紙を3まい買いました。代金はいくらですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○分かっていること聞かれていることをとらえる。 ○関係図を書き、何算であるかを考える。 ○立式する。 式) 312×3 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 3けた×1けたの筆算のしかたを考えよう。 </div>		<p>1 学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 153÷24の筆算のしかたを考えましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○前時との共通点、相違点を考える。 ◇除数が2位数 ◆被除数が3位数 ○153÷24の筆算を解く。 <p>2 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 3けた÷2けたの筆算の商の見当のつけかたを考えよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> 2位数÷2位数の筆算の仕方を掲示しておく。(手立て3) 筆算に取り組むことで、既習の商の見当の付けかたでは解けないことに気付かせる。 前時との共通点、相違点をとらえさせ課題を設定させる。 ◆既習の何十÷何十に置き換えらず、商の見当が付けられない。 	つかむ 5分
見通す 3分	<ul style="list-style-type: none"> ◎本時の学習内容に関わる掲示を見ながら、解決の方法を確認し、自力解決のヒントになるようにする。(手立て3) 既習の2位数×1位数の筆算の仕方をもとに3位数×1位数の筆算を考えさせる。 	<p>3 答えと解決の方法を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○方法の見通し ①模擬貨幣 ②図 ③たし算 ④計算 (被乗数を300,10,2) ⑤部分積の分かる筆算 ⑥筆算 ○312×3の筆算の仕方を予想し、解く。(答えの見通し) 		<p>3 答えと解決の方法を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○商の見当のつけ方を考える。 ※153÷24を150÷20として、商の見当を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ●リーダーを進行役に3人で話し合う。 2位数÷2位数の商の見当のつけ方をもとに153÷24の商の見当のつけ方を考えさせる。 ◎何百何十÷何十の既習事項を掲示物で確認しヒントとする。(手立て3) 	見通す 5分

6 本時の指導

(1) 目標

○3位数÷2位数の筆算の仮商のたて方を理解し、その筆算ができる。

(2) 本時の指導にあたって

手立て1「指導過程の工夫」

①指導内容に応じた弾力的な指導過程の工夫

「つかむ」段階で本時の筆算に取り組むことで、本時の課題を明確にし、「見通す」「やってみる」「たしかめる」を商の見当のつけ方に焦点をあてて指導する。そのことで、「まとめ」の段階で筆算の習熟の時間を確保する。

手立て2「個に応じた指導の工夫」

②個に応じた指導の工夫

「やってみる」場面では、支援が必要と予想される児童に、何百何十÷何十の計算をもとにした商の見当のつけ方を指導しその仕方を理解させる。また、練習問題に取り組む際も個別指導をし、助言をする。

手立て3「既習事項活用の工夫」

①掲示の工夫

本時までの学習内容を掲示し、学習活動の支援とする。

②提示方法の工夫

「見通し」の場面で、何百何十÷何十の既習事項を掲示物で確認し、自力解決への活用を促す。

(3) 評価規準と具体的評価規準

評価規準	
・3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。 (表現・処理)	
具体の評価規準	A (十分到達している) 何百何十÷何十の計算をもとに商の見当を付け、3位数÷2位数=1位数の筆算が正確にできる。
	B (到達している) 何百何十÷何十の計算をもとに商の見当を付け、3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。
	支援の工夫 自力解決時に、何百何十÷何十の計算をもとにした商の見当のつけ方を指導し、その定着を図る。

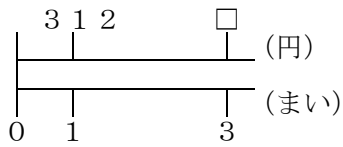
<p>やってみる 13分</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分からないときには互いに相談して良いことを指示する。 ⑩複数の解決方法に取り組めるように、解決の方法に応じた自力解決用のプリントを用意する。(手立て2) ⑩自力解決が停滞しないように、プリントの裏にはヒントになる事項を印刷しておく。(手立て2) 自力解決が早く終わった児童用に、それぞれの解決方法の関連性を考えるプリント用意しておく。 	<p>4 自分で考えた方法でやってみる。</p> <p>①図</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="width: 100px; text-align: center;">百</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">十</td> <td style="width: 50px; text-align: center;">一</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)(100)(100)</td> <td style="text-align: center;">⑩</td> <td style="text-align: center;">①①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)(100)(100)</td> <td style="text-align: center;">⑩</td> <td style="text-align: center;">①①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(100)(100)(100)</td> <td style="text-align: center;">⑩</td> <td style="text-align: center;">①①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">900</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td style="text-align: center;">6</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">答え 936円</p> <p>②たし算 $312 + 312 = 936$ 答え 936円</p> <p>③計算 (被乗数を300,10,2) 312×3 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="font-size: 2em;">{</td> <td>$300 \times 3 = 900$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>$10 \times 3 = 30$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>$2 \times 3 = 6$</td> </tr> <tr> <td></td> <td>あわせて 936</td> </tr> </table> 答え 936円</p> <p>④部分積の分かる筆算</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>312</td></tr> <tr><td>× 3</td></tr> <tr><td>6</td></tr> <tr><td>30</td></tr> <tr><td>936</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">答え 936円</p> <p>⑤筆算</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>312</td></tr> <tr><td>× 3</td></tr> <tr><td>936</td></tr> </table> <p style="text-align: center;">答え 936円</p>	百	十	一	(100)(100)(100)	⑩	①①	(100)(100)(100)	⑩	①①	(100)(100)(100)	⑩	①①	900	30	6	{	$300 \times 3 = 900$		$10 \times 3 = 30$		$2 \times 3 = 6$		あわせて 936	312	× 3	6	30	936	312	× 3	936	<p>4 自分で考えた方法でやってみる。</p> <p>①筆算</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: right;">7</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>24) 153 150</td> <td>24) 153</td> </tr> <tr> <td>20 168</td> <td>144</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">×</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> </table> <p>5 発表し合いみんなで確かめ合う。 ○筆算の確認</p> <p>6 解決方法をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> $153 \div 24$ を $150 \div 20$ として、商の見当をつける。 </div> <p>7 類似問題を解く。 ○284÷43の筆算を解く。</p>	7	6	24) 153 150	24) 153	20 168	144	×	9	<ul style="list-style-type: none"> 商の見当の付け方を確認させる。 ⑩支援が必要と予想される児童に、何百何十÷何十の計算をもととした商の見当の付け方を指導する。(手立て2) 確実に理解できるように筆算の手順を繰り返し確認し、定着を図らせる。 284÷43の筆算についても手順を丁寧に確認させる。 フラッシュカードを用い、商の見当の付け方の習熟を図る。 <p style="text-align: right;">やってみる 3分 たしかめる 4分</p>
百	十	一																																									
(100)(100)(100)	⑩	①①																																									
(100)(100)(100)	⑩	①①																																									
(100)(100)(100)	⑩	①①																																									
900	30	6																																									
{	$300 \times 3 = 900$																																										
	$10 \times 3 = 30$																																										
	$2 \times 3 = 6$																																										
	あわせて 936																																										
312																																											
× 3																																											
6																																											
30																																											
936																																											
312																																											
× 3																																											
936																																											
7	6																																										
24) 153 150	24) 153																																										
20 168	144																																										
×	9																																										
<p>たしかめる 12分</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えの共通点に気を付けながら聞くようにさせる。 全ての方法が被乗数を位ごとに分けて計算していることに気付かせる。 ☆3位数×1位数(部分積がみな1けた)の積の求め方を考えている。(数学的な考え方) <プリント・発表> 一の位から順に計算すれば、2位数×1位数同様、九九を使って答えを求められることに気付かせる。 	<p>5 発表し合い、みんなで確かめ合う。 ○確かめのまとめ</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>312</td> <td>2×3</td> <td>①①①①①①</td> </tr> <tr> <td>× 3</td> <td>10×3</td> <td>⑩⑩⑩</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>300×3</td> <td>(100)(100)(100)</td> </tr> <tr> <td>30</td> <td></td> <td>(100)(100)(100)</td> </tr> <tr> <td>936</td> <td></td> <td>(100)(100)(100)</td> </tr> </table> <p style="margin-left: 20px;"> 312×3 936 答え 936円 </p> <p>6 解決方法をまとめる。</p> <p>7 類似問題を解く。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr><td>212</td></tr> <tr><td>× 4</td></tr> <tr><td>848</td></tr> </table>	312	2×3	①①①①①①	× 3	10×3	⑩⑩⑩	6	300×3	(100)(100)(100)	30		(100)(100)(100)	936		(100)(100)(100)	212	× 4	848	<p>○練習問題を解く。</p> <p>8 課題のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 3けた÷2けたの筆算は、何百何十÷何十として商の見当をつける。 </div> </p> <p>9 練習問題を解く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 分からないときは互いに相談しながら解くことは指示する。 ●全員終わった場合は、リーダーを中心に答え合わせをする。 <p style="text-align: right;">まとめる 28分</p>																					
312	2×3	①①①①①①																																									
× 3	10×3	⑩⑩⑩																																									
6	300×3	(100)(100)(100)																																									
30		(100)(100)(100)																																									
936		(100)(100)(100)																																									
212																																											
× 4																																											
848																																											
<p>まとめる 12分</p>	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの学年の学習で良かったところを賞揚し、次時の活動への意欲付けをしたい。 	<p>8 課題のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 3けた×1けたの筆算も、一の位から順に計算する。 </div> </p> <p>9 練習問題を解く。</p> <p>10 学習を振り返る。 ○分かったことや良かったことなどについて感想を話す。</p> <p>11 次時の予告をする。</p>	<p>10 学習を振り返る。 ○分かったことや良かったことなどについて感想を話す。</p> <p>11 次時の予告をする。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> ☆3位数÷2位数=1位数の筆算ができる。(表現・処理) <プリント> </div> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの学年の学習で良かったところを賞揚し、次時の活動への意欲付けをしたい。 																																							

(5) 板書計画

《3年生》

問題

1まい312円の色画用紙を3まい
買いました。
代金はいくらですか。



式) $312 \times 3 = 936$
 答え 936円

①図

百	十	一
100 100 100	10	1 1
100 100 100	10	1 1
100 100 100	10	1 1
900	30	6

答え 936円

②たし算

$312 + 312 + 312 = 936$
 答え 936円

③さくらんぼ

(被乗数を300, 10, 2)
 312×3
 $300 \times 3 = 900$
 $10 \times 3 = 30$
 $2 \times 3 = 6$
 あわせて 936
 答え 936円

④位ごとの筆算

$$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$$

 答え 936円

⑤筆算

$$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$$

 答え 936円

まとめ

3けた×1けたの筆算も、一の位から順に計算する。

◎3けた×1けたの筆算

$$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$$

「三二が6」
 「三一が3」
 「三三が9」

○確かめのまとめ

$$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$$

2 × 3 ①①①①①①
 10 × 3 ⑩⑩⑩
 300 × 3 ①00①00①00
 ①00①00①00
 ①00①00①00

$$\begin{array}{r} 312 \\ \times 3 \\ \hline 936 \end{array}$$

 答え 936円

《4年生》

問題

153 ÷ 24の筆算のしかたを考えま
 しょう。

○2けた÷2けたの筆算のしかた

①2けた÷2けたを

何十÷何十として 商の見当を立てる。

☆かけた数がひけないとき

→ひける数になるまで

商を1ずつ小さくしていく。

★あまりがわる数より大きくなったとき

→あまりがわる数より小さくなるまで

商を1ずつ大きくしていく。

24)153 (児童の筆算)

商の見当が
つけられない!

課題

3けた÷2けたの筆算の商の見当の
 つけかたを考えよう。

○商の見当のつけかた

※153 ÷ 24を150 ÷ 20として、
 商の見当をつける。

①筆算

$$\begin{array}{r} 7 \\ 24 \overline{) 153} \quad 150 \\ \underline{20} \quad 168 \\ \times \end{array} \Rightarrow \begin{array}{r} 6 \\ 24 \overline{) 153} \\ \underline{144} \\ 9 \end{array}$$

○確かめのまとめ

153 ÷ 24を
 150 ÷ 20として、商の
 見当をつける。

まとめ

3けた÷2けたの筆算は、
 何百何十÷何十として商の見当をつける。

似た問題

$$\begin{array}{r} 7 \\ 43 \overline{) 284} \\ \underline{301} \\ \times \end{array} \Rightarrow \begin{array}{r} 6 \\ 43 \overline{) 284} \\ \underline{258} \\ 26 \end{array}$$

(6) 座席表 (略)

①：予想される支援場面 ②：さらに高めたい力 ③：①②の具体的支援

黒板

①
②
③ア：
イ：

①
②
③ア：
イ：

①
②
③ア：
イ：

①
②
③ア：
イ：

黒

①
②
③ア：
イ：

板

①
②
③ア：
イ：

黒

板